

寒冷な奥深い世界

寒いよ、寒い・・・ 氷点下の世界を耐えるのに、生命力が試されます。

冬のあきる野の奥山は、同じ東京の都心部に比べてずっと気温が低くなります。標高が高いほど、厳しく、谷が深いほど静かで、風が吹けばなおさら染みる寒冷。そんな中でも、活動し続ける生き物がいれば、スタンバイして春の到来を待つ植物や、昆虫類の蛹や卵など、または冬眠中の生き物もいます。実に奥深い世界で、時には多くの生き物が活発な時期よりも、じっくりと観察できる機会があります。

寒さを耐えるフル装備で、ほんのり白黒の世界に飛び込むベストシーズンです！！



冬あられ



寒冷な時期に山地の溪流で産卵を行う**ナガレタゴガエル**。ぶよぶよと冷たく流れる沢の中。



美しい**ルリビタキ**などの冬鳥の出番です。栄養を得るため、わずかな餌を探す日々が続く。



昨夏にサクラ類の枝に産み付けられた**メスアカミドリシジミ**の卵(大きき約1mm)。冬を越して今年の晩春まで静かに眠っています。



寒冷と言えば、思い浮かぶ風物詩

ツララは素敵な自然の工作であると思いませんか。寒い場所ほど長くて太く、水が流れる日当たりの少ない沢筋できつといいものを見つけられます！



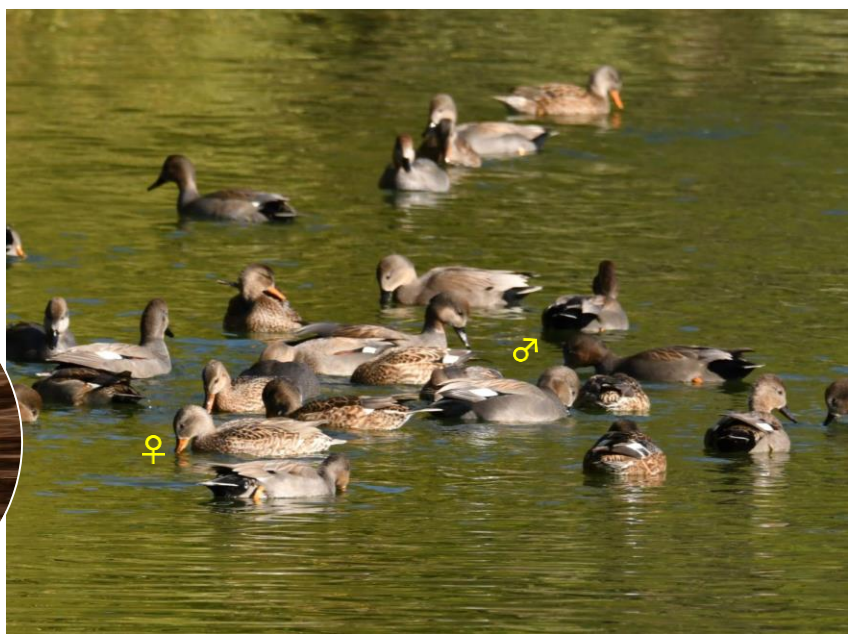
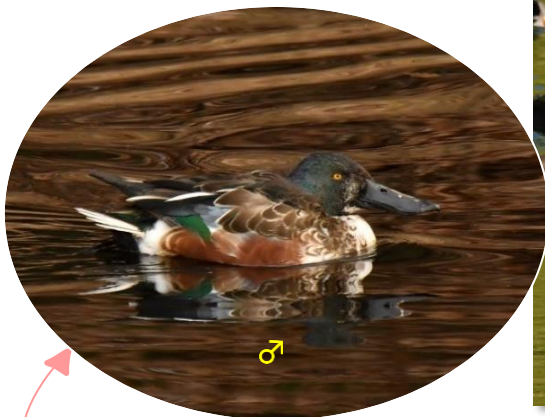
寒さがピークになったら、思わぬ出会い・・・

2018年1月。非常に寒い日に、伐採された山の周辺で行ったり来たりする鳥の群れの姿が気になりました。冬のこの地域の「常連さん」のマヒワかアトリだろうと思いつつながら、双眼鏡で確かめたら、なんと珍鳥のハギマシコの群れであることを確認！あきる野では、最初で最後の貴重な出会いになりました。

2022・23年冬期
あきる野のカモ類



毎年1月は、越冬のためにこの地域に飛来するカモ類の個体数がピークを迎えます。強い寒波が発生する年は、比較的温暖地である関東平野部に飛来するカモ類がさらに増加する傾向が見られ、近年はマガモなどの数百羽もの大きな群れがあきる野を訪れました。今期は、昨年の年末の段階ですが、前例のないオカヨシガモ(下写真)の大きな群れ(最大時113羽)を確認しました。他にも、オシドリ、ヨシガモやヒドリガモも例年に比べて数多く確認しています。



かつて、上野恩賜公園などの水場に数多くが飛来していたハシビロガモですが、あきる野周辺では毎年数羽の飛来に限り、少ない種となっています。嘴は、体と比べてとても大きく見えます。その理由に、スペイン語では「パト・クチャラ」(＝スプーン鴨)と名づけられています。とにかく、今年も来てくれてありがとうございます！！

秋川などの水辺環境を訪れるみなさん、今年もカモたちをよろしくお願ひします！

